

中小企業景気動向調査

〔2015年1～3月期の景況 / 4～6月期の予想〕

【調査要項】

実施期間:2015年2月20日～3月6日

調査対象:県内の当金庫のお取引先 995社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	432	137	66	32	155	40	38	95	995
回答数	387	114	59	25	137	38	34	89	883
回答率(%)	89.6	83.2	89.4	78.1	88.4	95.0	89.5	93.7	88.7



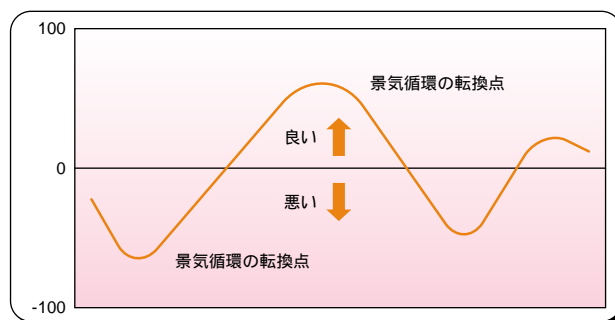
DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3か月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 (\%ポイント)$$



結果概要

1～3月期の景況

景況感は小幅改善。非製造業はDIが1年ぶりにプラス浮上。

機械器具部品製造業は、国内外の堅調な需要を背景に6四半期連続のDIプラス。

運輸業は3四半期連続の改善。燃料価格の下落で。

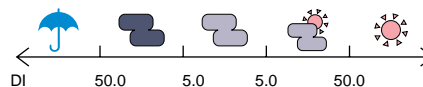
小売業は大幅に改善。消費増税の影響が薄れる。

4～6月期の予想

製造業・非製造業ともにマインド悪化へ。

機械器具部品製造業と不動産業は、DIのプラスを維持。

〔天気マークの見方〕



業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	10～12月期 (前回)	1～3月期 (今回)	4～6月期 (予想)	業種	10～12月期 (前回)	1～3月期 (今回)	4～6月期 (予想)
全産業	3.3	0.3	6.9	印刷	36.4	27.3	0.0
製造業	2.3	3.9	4.8	食料品	13.8	28.6	14.3
非製造業	4.0	2.6	8.5	卸売業	5.0	10.5	7.9
自動車部品	21.9	1.0	12.7	小売業	34.5	13.6	22.8
機械器具部 品	26.4	14.9	17.8	飲食業	22.2	20.0	25.0
金属製品	8.3	11.8	3.0	建設業	5.9	11.8	6.9
窯業・土石	23.5	57.9	52.6	不動産業	5.2	13.2	10.8
木材・木製品	16.7	33.3	0.0	運輸業	15.6	18.2	6.2
繊維製品	16.0	15.4	3.8	サービス業	3.4	12.7	6.9

業況判断

	前回	今回	予想	変化幅			
				前回	今回	今回	予想
全産業	3.3	0.3	6.9	3.0		-6.6	
製造業	2.3	3.9	4.8	-1.6		-0.9	
非製造業	4.0	2.6	8.5	6.6		-11.1	

(単位：%ポイント　　はマイナス)

〔全産業〕

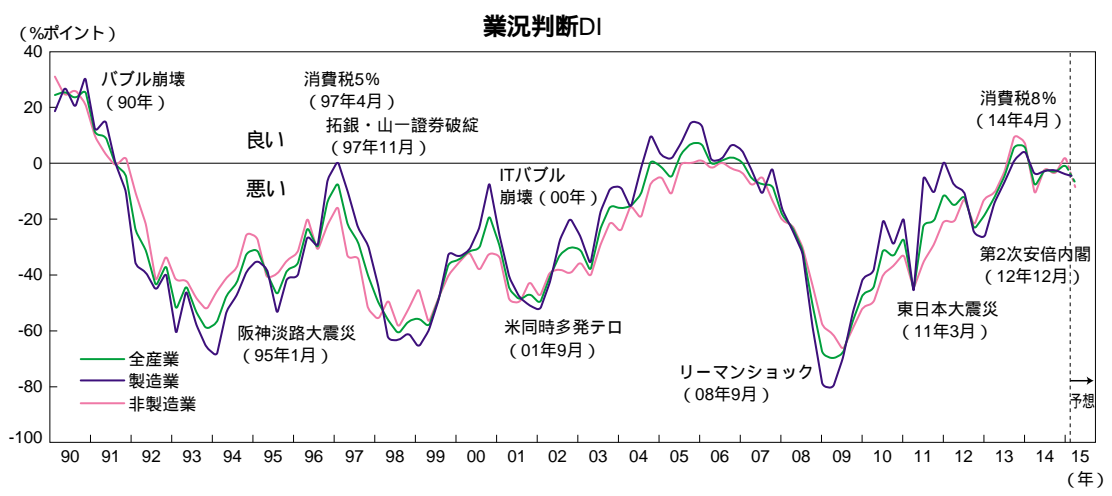
1～3月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス0.3となり、10～12月期（マイナス3.3）にくらべ3.0ポイント改善した。改善は2四半期ぶり。

4～6月期の**予想業況判断DI**はマイナス6.9と、6.6ポイント悪化する見通し。

〔製造業〕

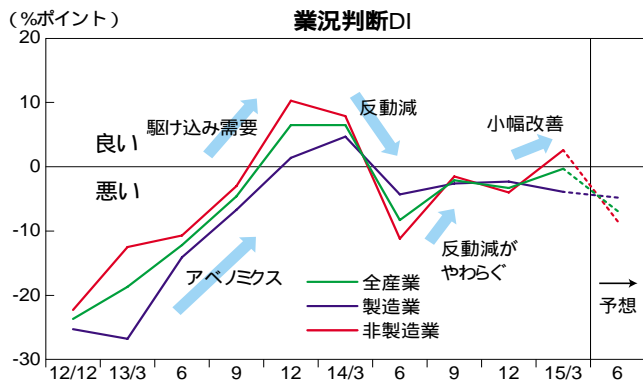
業況判断DIはマイナス3.9。10～12月期（マイナス2.3）にくらべ1.6ポイント悪化。

- ・ DIが改善したのは、自動車部品、金属製品、繊維製品、印刷。悪化したのは、機械器具部品、窯業・土石、木材・木製品、食料品。
- ・ 自動車部品は大幅に改善。22.9ポイントの改善幅は全業種中で最大。クルマの増産がマインドを良化させたもよう。
- ・ 機械器具部品のDIは悪化したものの、6四半期連続のプラス。国内外の堅調な機械需要が背景。
- ・ 金属製品は2四半期連続でDIのプラスを維持。「金属製品」で集計をはじめた2007年10～12月期以来初。



予想業況判断DIはマイナス4.8と、悪化の見通し。

- ・ 機械器具部品、窯業・土石、木材・木製品、繊維製品、印刷、食料品で改善を見込む。
- ・ 自動車部品と金属製品は悪化の予想。
- ・ 予想DIがプラスになったのは機械器具部品。



〔非製造業〕

業況判断DIはプラス2.6。10～12月期（マイナス4.0）にくらべ6.6ポイント改善。2四半期ぶりの改善。DIのプラス浮上は1年ぶり。

- ・ 卸売業を除いた業種でDIが改善。
- ・ 建設業は3四半期連続の改善。DIプラスは9四半期連続。回復の遅れていた住宅建設を主体とする企業にも改善の兆しが見られるようになっている。
- ・ 運輸業も3四半期連続の改善。燃料価格が大幅に下がったことでマインド悪化が避けられたもよう。
- ・ 小売業の改善幅20.9は非製造業のなかで最大。「貴金属・時計など高級雑貨品の動きが良い」「消費者の買い控えが少し収まっている」といった声が聞かれ、消費増税の影響は薄れているとみられる。
- ・ サービス業は法人向けが堅調に推移する一方、個人向けは冴えないという構図は変わっていない。

予想業況判断DIはマイナス8.5と、悪化の予想。

- ・ 卸売業は改善を見込む。
- ・ 不動産業は悪化予想だが、プラスを維持する見通し。

		1～3月期の業況	
		改善した業種	悪化した業種
製造業	自動車部品	機械器具部品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 印刷 食料品	
	金属製品		
繊維製品			
印刷			
食料品			
非製造業	小売業	卸売業	
	飲食業		
	建設業		
	不動産業		
	運輸業		
	サービス業		

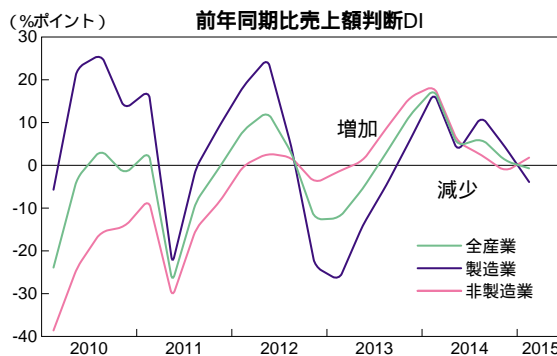
		4～6月期の予想	
		改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	機械器具部品	自動車部品 金属製品	
	窯業・土石		
	木材・木製品		
	繊維製品		
	印刷		
	食料品		
非製造業	卸売業	小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	

売上額・収益

〔全産業〕

前年同期比売上額判断DI（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス0.7〔減少〕。

前年同期比収益判断DI（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス8.1〔減少〕。4四半期連続の減益。

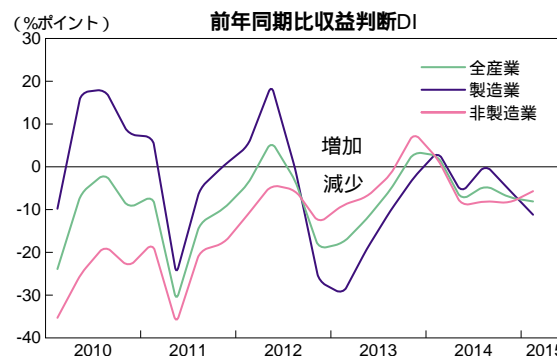


〔製造業〕

前年同期比売上額判断DIはマイナス3.9〔減少〕。

前年同期比収益判断DIはマイナス11.2〔減少〕。

- ・ 機械器具部品は6四半期連続の増収増益。



〔非製造業〕

前年同期比売上額判断DIは1.8〔増加〕。

前年同期比収益判断DIはマイナス5.7〔減少〕。

- ・ 増収増益は、飲食業、不動産業、運輸業、サービス業。飲食業の増収増益は10年ぶり。

		前年同期にくらべた売上額	
		増加した業種	減少した業種
製造業		機械器具部品 金属製品 印刷	自動車部品 窯業・土木 木材・木製品 繊維製品 食料品
非製造業		飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業

		前年同期にくらべた収益	
		増加した業種	減少した業種
製造業		機械器具部品 印刷	自動車部品 金属製品 窯業・土石 木材・木製品 繊維製品 食料品
非製造業		飲食業 不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業 建設業

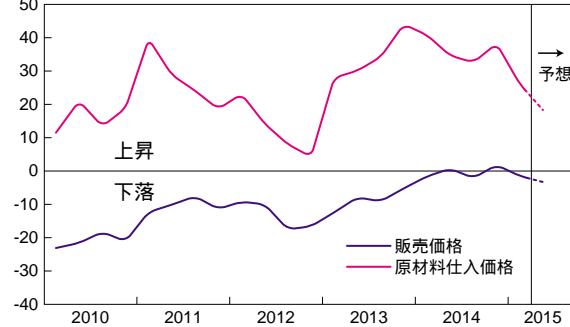
販売価格・仕入価格

〔全産業〕

販売価格判断DI（販売価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は4.5〔上昇〕。

仕入価格判断DI（仕入価格が3カ月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は30.6〔上昇〕となった。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



〔製造業〕

販売価格判断DIはマイナス1.5〔下落〕。

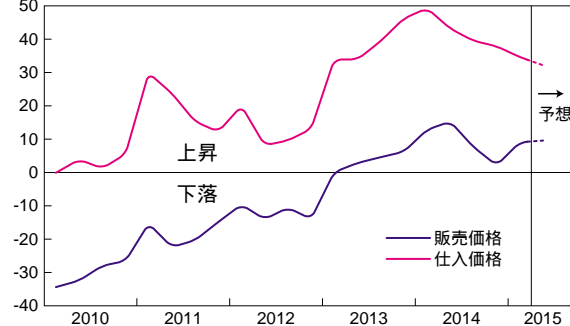
原材料仕入価格判断DIは26.1〔上昇〕。

〔非製造業〕

販売価格判断DIは9.0〔上昇〕。

仕入価格判断DIは34.1〔上昇〕。

(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



資金繰り

〔全産業〕

資金繰り判断DI（資金繰りが3カ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）は1.4〔楽〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス3.1〔苦しい〕。

〔製造業〕

資金繰り判断DIは0.6〔楽〕。

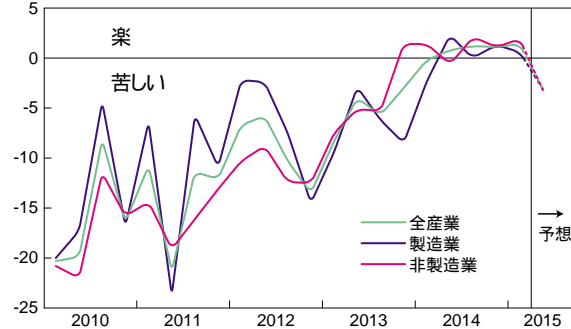
予想資金繰り判断DIはマイナス3.1〔苦しい〕。

〔非製造業〕

資金繰り判断DIは1.9〔楽〕。

予想資金繰り判断DIはマイナス3.2〔苦しい〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



雇用

〔全産業〕

残業時間判断DI（残業時間が3カ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は6.0〔増加〕。

予想残業時間判断DIはマイナス0.4〔減少〕。

人手過不足判断DI（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス32.1〔不足〕となり、人手不足感が広がっている。

予想人手過不足判断DIはマイナス25.7〔不足〕となっている。

〔製造業〕

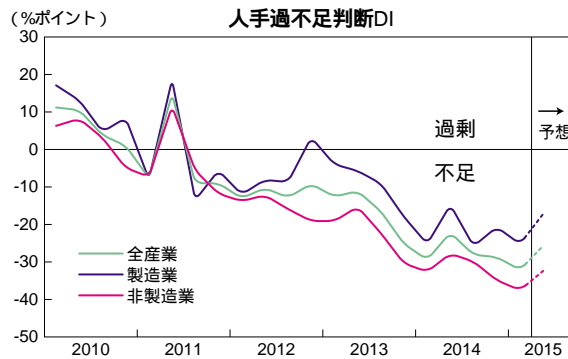
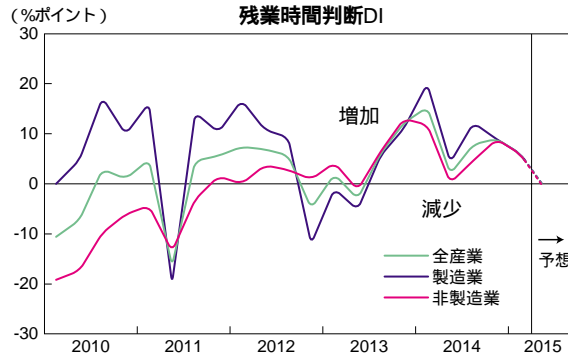
残業時間判断DIは6.1〔増加〕。

予想残業時間判断DIはマイナス0.3〔減少〕。

人手過不足判断DIはマイナス25.2〔不足〕。

- ・ 機械器具部品は人手不足感がさらに広がっている。

予想人手過不足判断DIはマイナス17.2〔不足〕。



		3カ月前とくらべた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業		自動車部品 機械器具部品 繊維製品	金属製品 窯業・土石 木材・木製品 印刷 食料品
		建設業 不動産業 運輸業 サービス業	卸売業 小売業
		飲食料は変わらず	

		人手過不足感	
		人手過剰	人手不足
製造業			自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石 繊維製品 食料品
		木材・木製品、印刷は過不足感なし	
非製造業			卸売業 小売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業

〔非製造業〕

残業時間判断DIは6.0〔増加〕。

予想残業時間判断DIはマイナス0.6〔減少〕。

人手過不足判断DIはマイナス37.5〔不足〕。

- ・ 飲食業、建設業、運輸業でとくに深刻な人手不足が続いている。
- ・ 運輸業では、人の問題で業務に支障を来しているところもみられる。

予想人手過不足判断DIはマイナス32.4〔不足〕。

設 備

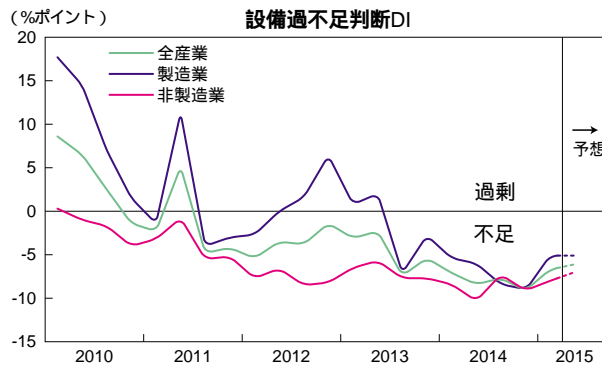
〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス6.7〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス6.1〔不足〕。

1～3月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は31.1%。

4～6月期に設備投資を計画している企業は29.4%。

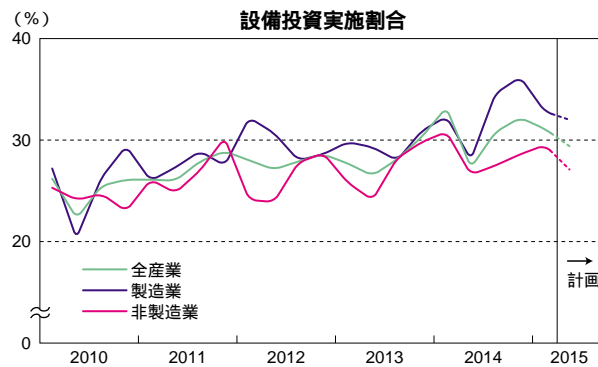


〔製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス5.1〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス5.1〔不足〕。

1～3月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は32.8%。



- ・ 内訳は、「機械・設備の新增設」が51.2%、「機械・設備の更改」が26.4%、「事務機器」が19.0%、「車両」が19.0%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的は、「老朽化にともなう更新」が36.4%、「能力増強」が35.5%、「合理化・省力化」が28.1%などとなった。

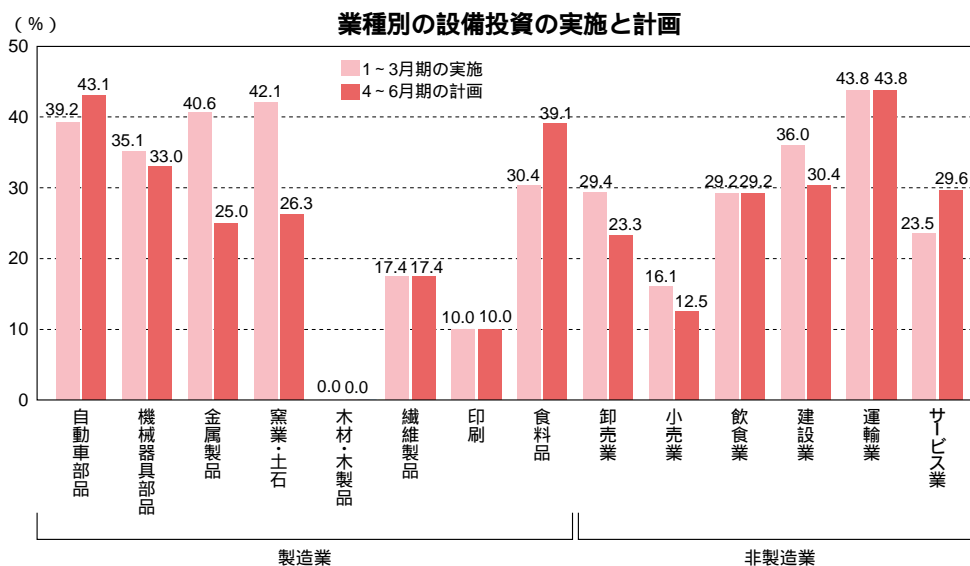
4～6月期に設備投資を計画している企業は32.0%。

〔非製造業〕

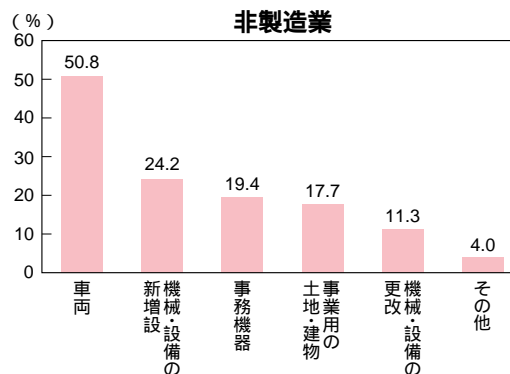
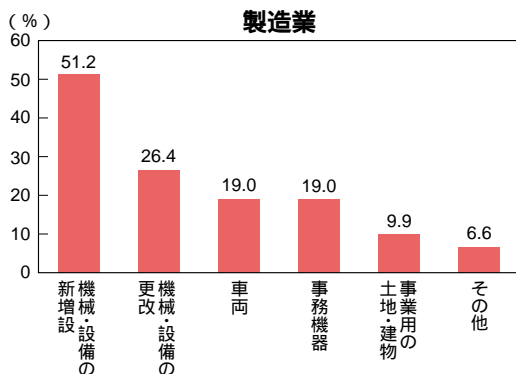
設備過不足判断DIはマイナス8.0〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス7.0〔不足〕。

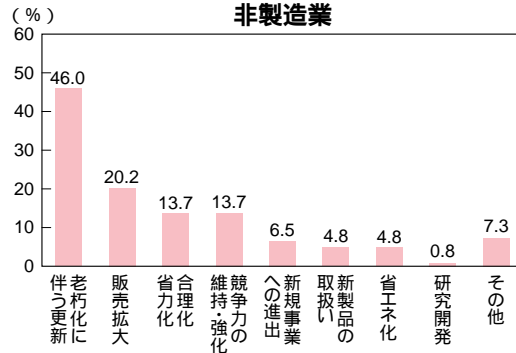
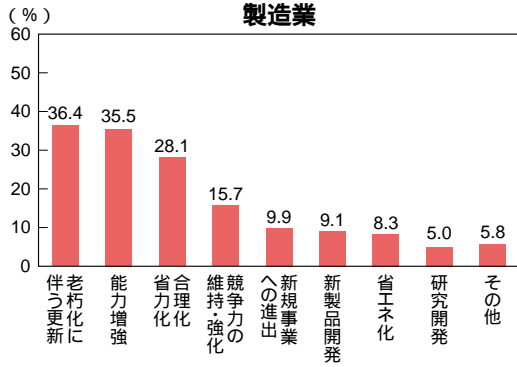
- ・ 1～3月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は29.5%。
- ・ 内訳は、「**車両**」が50.8%、「**機械・設備の新增設**」が24.2%、「**事務機器**」が19.4%、「**土地建物**」が17.7%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的は、「**老朽化にともなう更新**」が46.0%、「**販売拡大**」が20.2%、「**合理化・省力化**」が13.7%、「**競争力の維持・強化**」が13.7%などとなった。
- ・ 4～6月期に**設備投資を計画**している企業は27.1%。



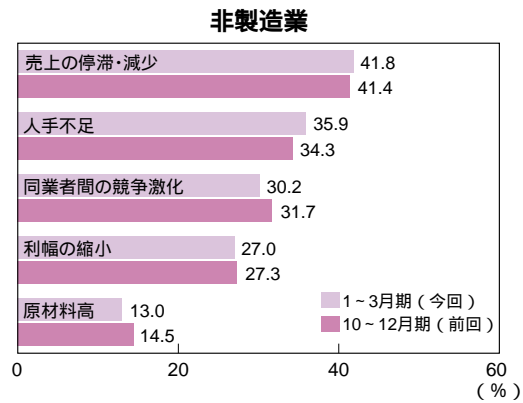
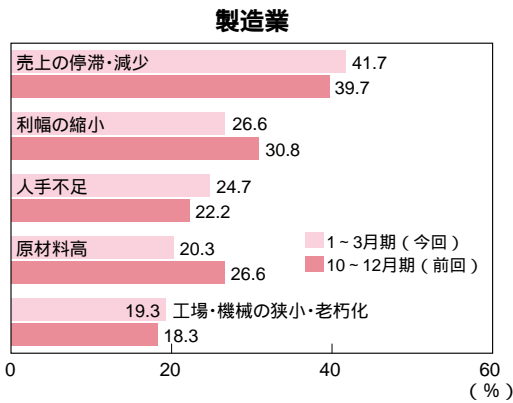
1～3月期の設備投資の内訳



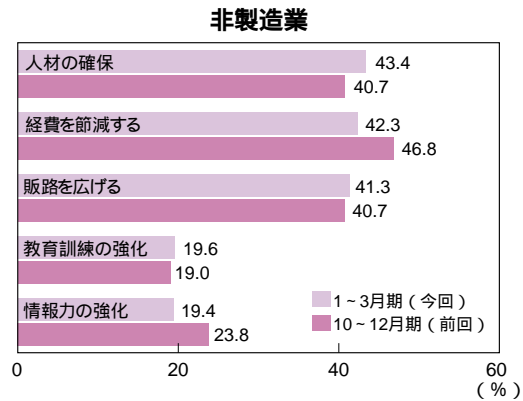
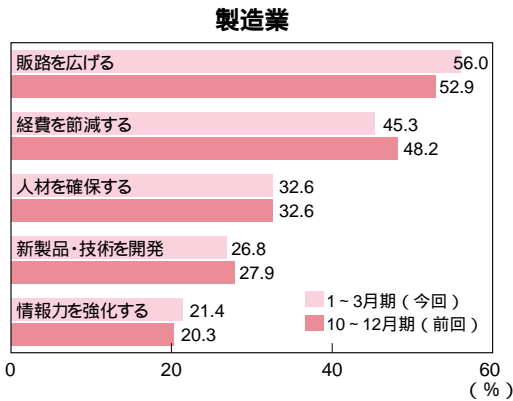
1～3月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策



業種別動向

製造業

●自動車部品

1～3月期の景況 クルマ増産でマインド良化、売上額・収益は反動減

4～6月期の予想 予想DIは悪化へ、先行き楽観を許さず

■1～3月期の景況

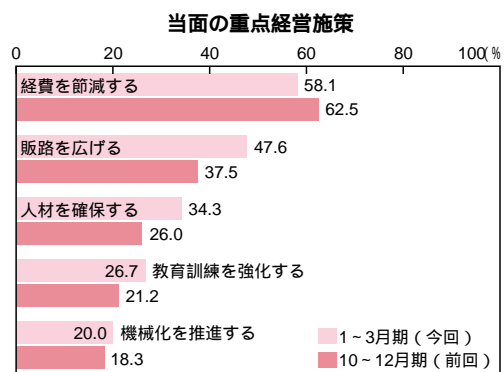
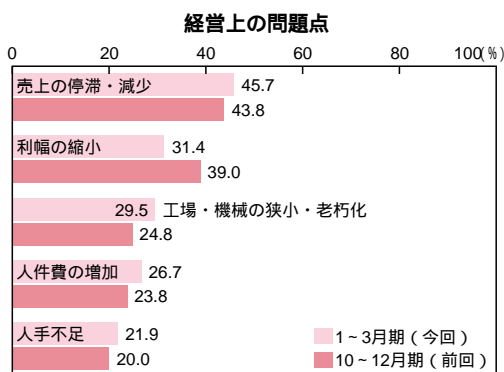
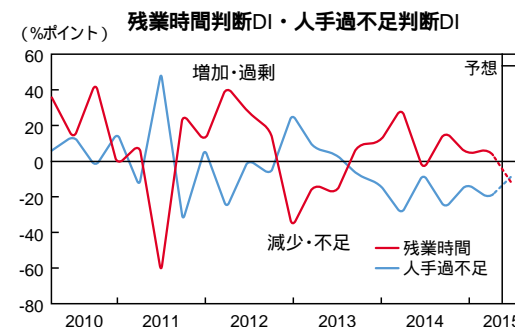
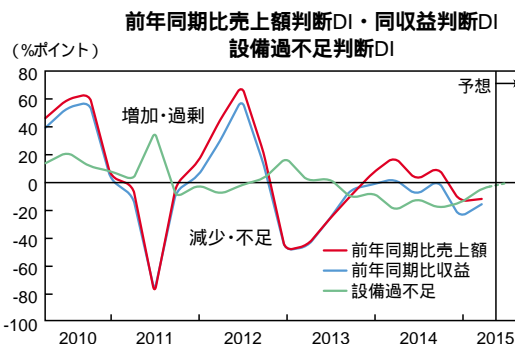
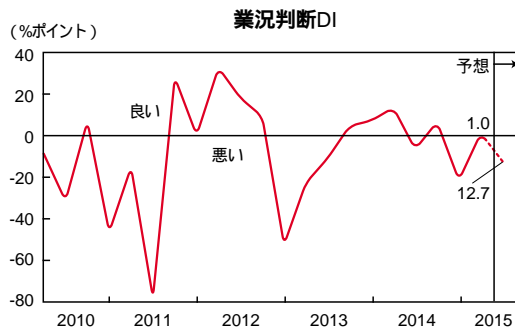
業況判断DIは1.0となり、10～12月期（21.9）にくらべ大幅に改善、2四半期ぶりにプラスに浮上した。改善幅の22.9は全業種のなかで最大。トヨタ自動車の日あたり生産台数が年度末に向って増えたことなどでマインドが良化したとみられる。

ただ、足元の動向をあらわす前年同期比売上額判断DIは 12.5。同収益DIは 16.3と、減収減益となっている。昨年1～3月期にみられた消費増税にともなう駆け込み需要の反動が出ている。

経営上の問題点には「売上の停滞・減少」や「利幅の縮小」などが上位にあがっている。

■4～6月期の予想

予想業況判断DIは 12.7。再び悪化する見通し。例年の年度末商戦の反動減を考慮し、先行き楽観視する向きは少ない。



1～3月期の景況 堅調な機械需要の下、6期連続のDIプラス

4～6月期の予想 予想判断DI改善、業況持ち直しへ

■1～3月期の景況

業況判断DIは14.9となり、10～12月期(26.4)にくらべ悪化した。悪化したとはいえ、DIは6四半期連続のプラスで、総じて底堅いようすがうかがえる。

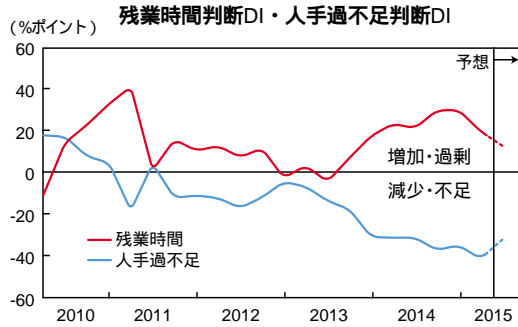
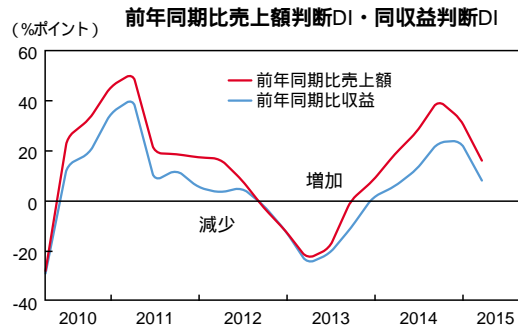
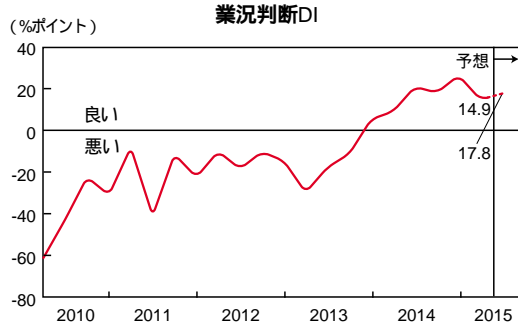
前年同期比売上額判断DIや同収益判断DIもプラスを維持。増収増益の基調も崩れていない。国内外の堅調な機械需要が背景にあるとみられる。

懸念材料は人手不足。人手過不足判断DIは41.5〔不足〕。このところ、不足感がさらに広がっている。

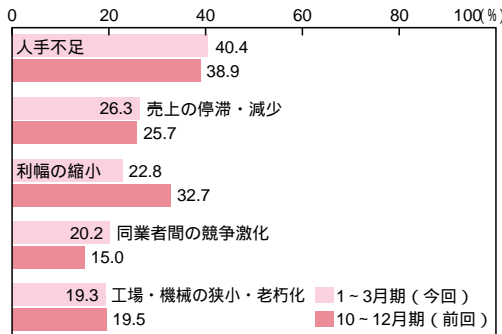
■4～6月期の予想

予想業況判断DIは17.8。1～3月期にくらべ改善する見通し。人手不足は解消されそうにないが、業況はやや持ち直すとみられる。

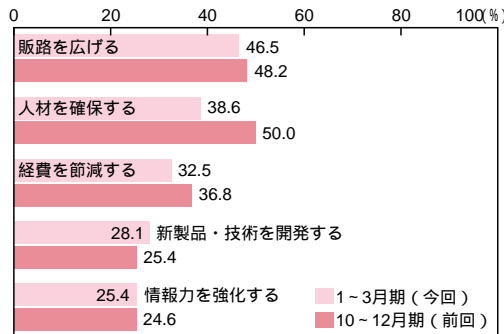
今回調査で予想DIがプラスになったのは製造業のなかでは機械器具部品のみ。機械器具部品の回答企業は、予想を控え目にする事が多いため、経営環境が大きく変化しなければ、判断DIは上振れする可能性もある。



経営上の問題点



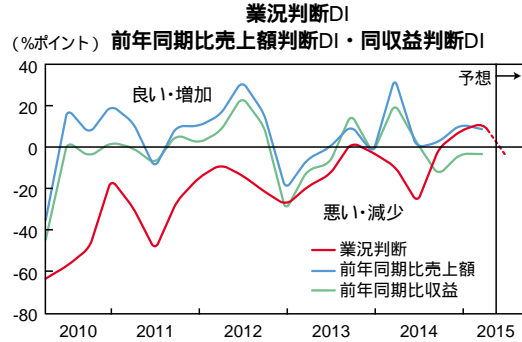
当面の重点経営施策



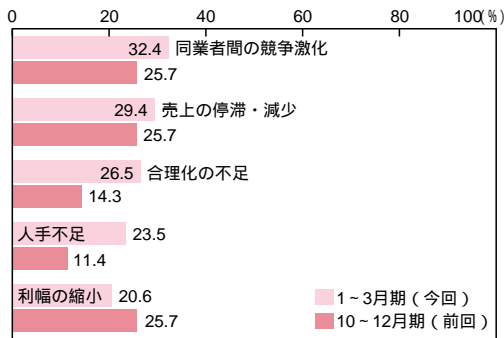
▶ 【金属製品】

業況判断DIは11.8。10～12月期（8.3）にくらべ改善した。改善は3四半期連続。DIのプラスは2四半期連続。連続プラスは「金属製品」で集計を始めた2007年10～12月期以来、初めてのこと。景況感は回復している。前年同期比売上額判断DIは8.9〔増加〕、同収益判断DIは 3.0〔減少〕。

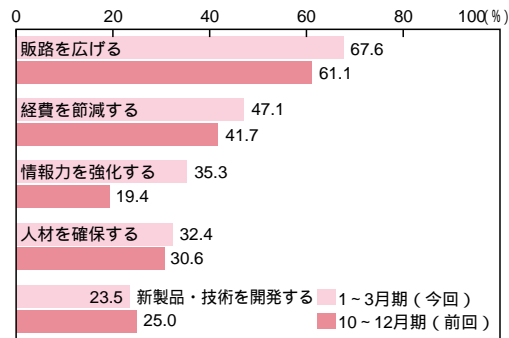
予想業況判断DIは 3.0。悪化の見通し。



経営上の問題点



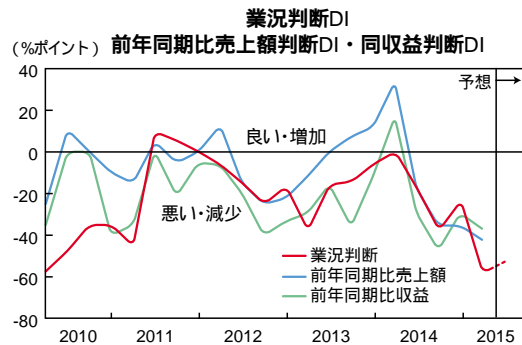
当面の重点経営施策



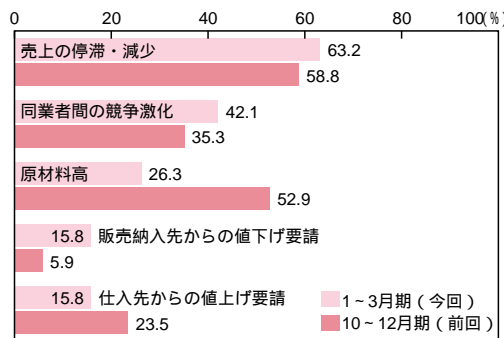
▶ 【窯業・土石】

業況判断DIは 57.9。10～12月期（ 23.5）にくらべ大幅に悪化した。前年同期比売上額判断DIは 42.1、同収益判断DIは 36.4。ここ1年ほど、減収減益基調が続いている。経営上の問題点としては、「売上の停滞・減少」や「同業者間の競争激化」をあげる企業が多い。

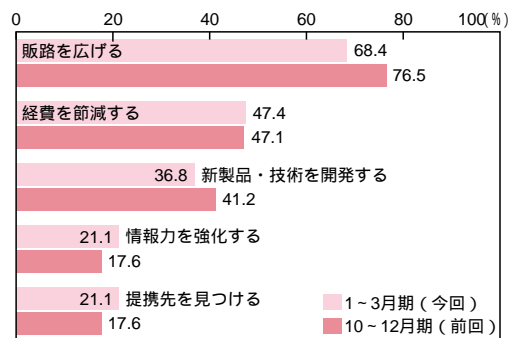
予想業況判断DIは 52.6。少し改善する形になったが、厳しい景況に大きな変化はなさそうである。



経営上の問題点



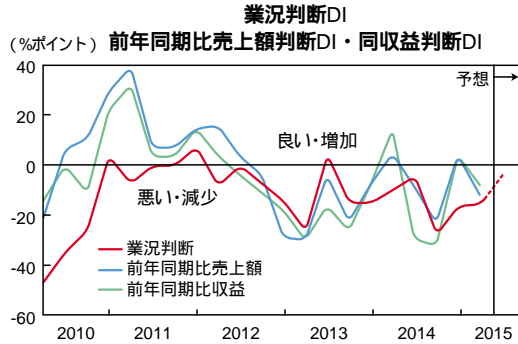
当面の重点経営施策



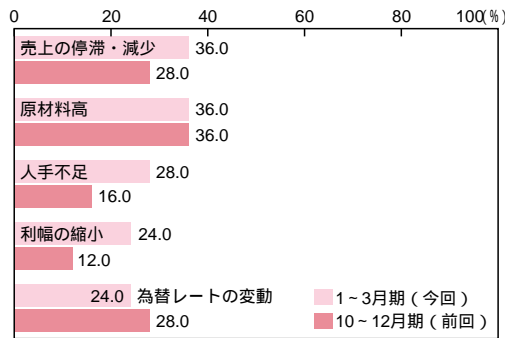
▶ 【繊維製品】

業況判断DIは 15.4。10~12月期(16.0)とほとんど変わらず、景況感は横ばい推移した。前年同期比売上額判断DIは 11.6 [減少]、同収益判断DIも 7.7 [減少]と、再びマイナスに転じた。経営上の問題点として、「人手不足」や「利幅の縮小」をあげている企業が増えているのが目につく。

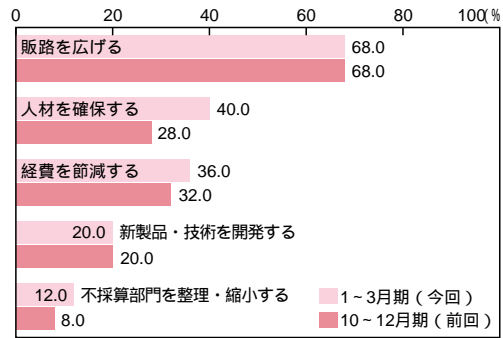
予想業況判断DIは 3.8と、改善の見通し。



経営上の問題点



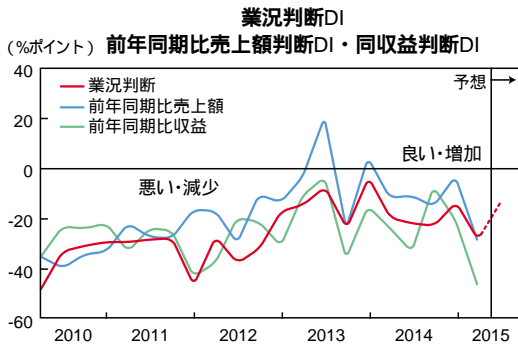
当面の重点経営施策



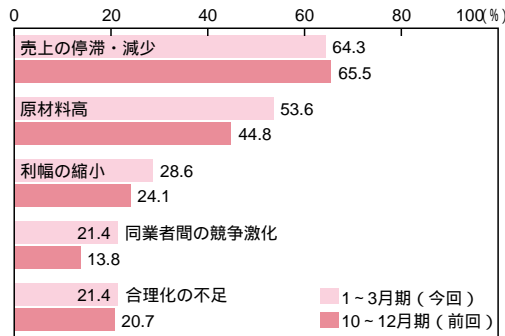
▶ 【食料品】

業況判断DIは 28.6。10~12月期(13.8)にくらべ悪化した。前年同期比売上額判断DIは 28.6 [減少]、同収益判断DIは 46.4 [減少]。減収減益が長引いている。売上が伸びないなか、原材料価格の上昇分を十分に転嫁できていないことがうかがえる。

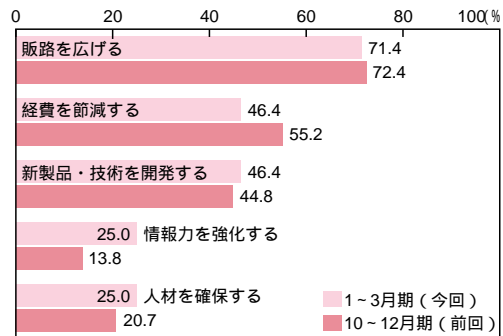
予想業況判断DIは 14.3。改善の予想。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



1～3月期の景況 …… 機械器具卸は改善、農畜産物・水産卸など振るわず

4～6月期の予想 …… 販売価格の上昇を見込み、売上増加にも期待

■ 1～3月期の景況

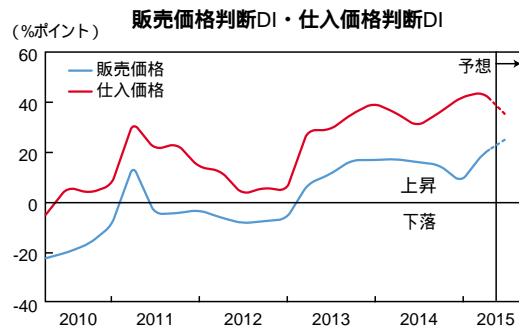
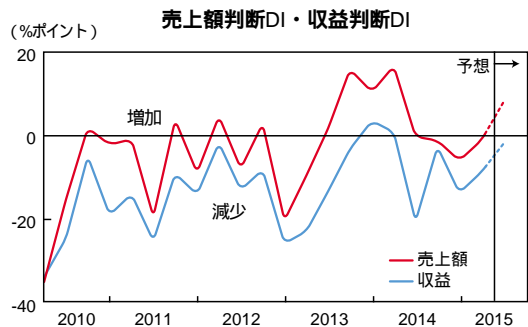
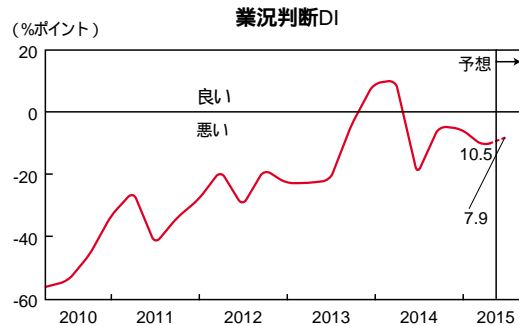
業況判断DIは 10.5と、10～12月期（5.0）に比べ悪化した。悪化は2四半期連続。機械器具卸は堅調な設備投資に支えられ改善したものの、農畜産物・水産卸や食料・飲料卸の悪化が響いた。

一般的に為替の円安で仕入価格の上昇が続いている。足元の価格動向を示す仕入価格判断DIは43.7〔上昇〕となった。他方、販売価格判断DIは18.7〔上昇〕となっており、この乖離から価格転嫁が追いついていないことがうかがえる。

経営上の問題点には「売上高の停滞・減少」をあげる企業が増えている。

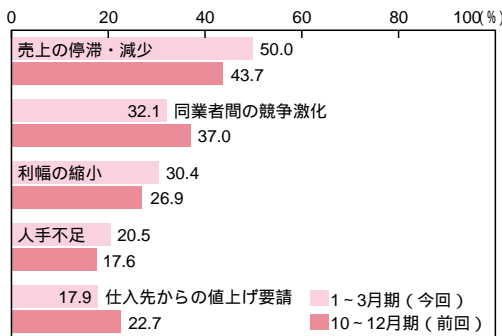
■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 7.9と、改善する見込み。販売価格の引き上げを検討する企業が少し増えそうで、売上増加への期待もある。

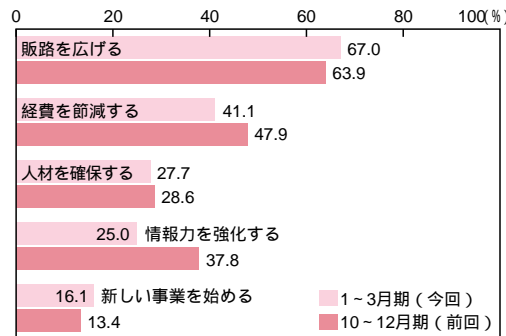


業況判断DI	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月 (予想)
農畜産物・水産物	17.7	0.0	33.3	5.6
食料・飲料	9.1	7.7	25.0	33.3
機械器具	27.0	14.2	25.0	25.0
建設材料	9.6	5.0	0.0	5.0

経営上の問題点



当面の重点経営施策



1～3月期の景況 景況感が大幅に改善、消費増税の影響は薄れる

4～6月期の予想 予想DIは悪化、先行き慎重な見方増える

■1～3月期の景況

業況判断DIは 13.6となり、10～12月期（ 34.5）に比べ改善した。改善幅の20.9ポイントは非製造業のなかで最大。「貴金属・時計など高級雑貨品の動きが良い」「消費者の買い控えが少し収まっている」といった声が聞かれ、昨年4月の消費増税の影響は薄れているとみられる。

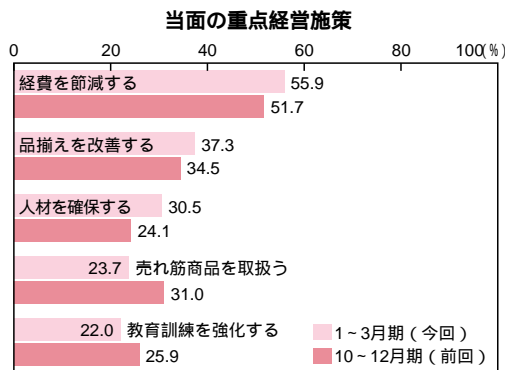
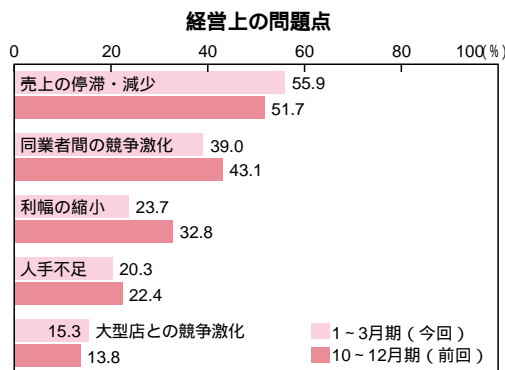
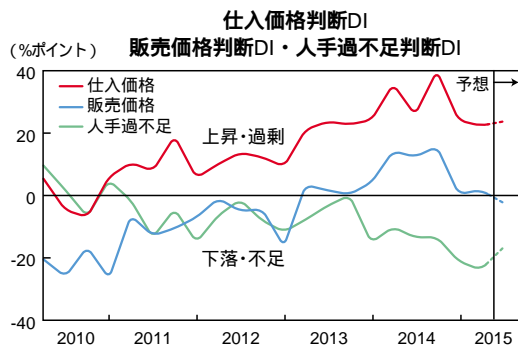
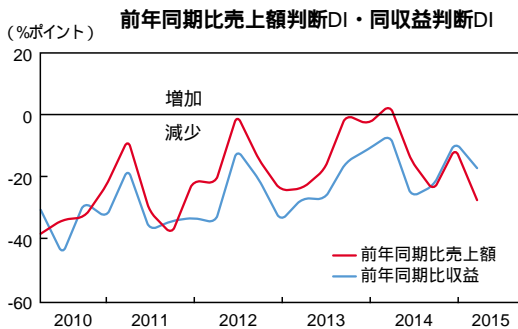
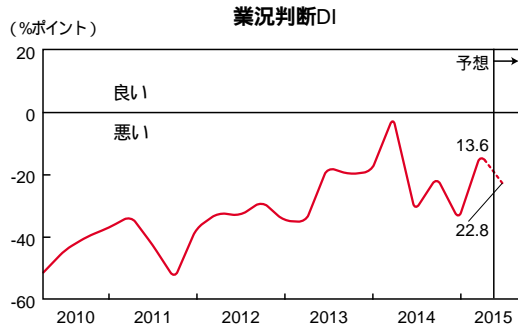
ただ、判断DIは依然として水面下において、全体として冴えない業況が続いている。経営上の問題点をみても「売上の停滞・減少」をあげるところが相変わらず多い。

また、人手不足感も広がっている。

■4～6月期の予想

予想業況判断DIは 22.8。再び悪化する見通し。不透明な環境は変わっておらず、先行き慎重にみる向きが増えている。

当面の重点経営施策には「経費の節減」がトップあがっている。



1～3月期の景況 判断DIやや改善、10年ぶりの増収増益に

4～6月期の予想 値上げ要請と人手不足、懸念材料として残る

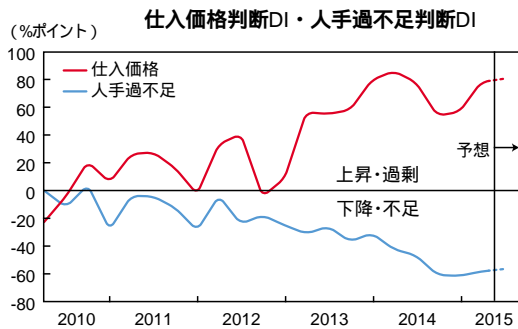
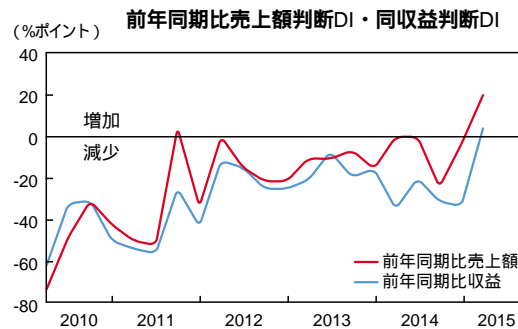
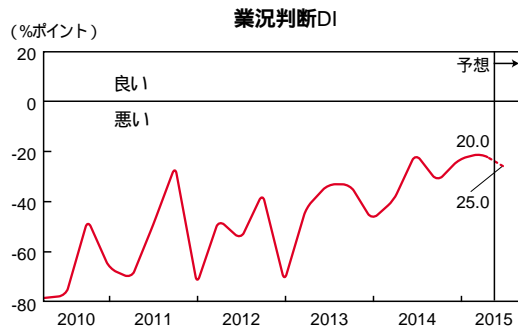
■ 1～3月期の景況

業況判断DIは 20.0と、10～12月期（22.2）に比べやや改善した恰好。景況を「悪い」と回答した企業が依然として多数派を占め、DIはマイナス域にとどまったが、前年同期比売上額や同収益の判断DIをみると、ともにプラス〔増加〕に転じている。このふたつのDIがそろってプラスになるのは2005年7～9月期以来、じつに10年ぶりのこと。回答企業からは「消費マインドが少しずつ回復している」という声も出ている。

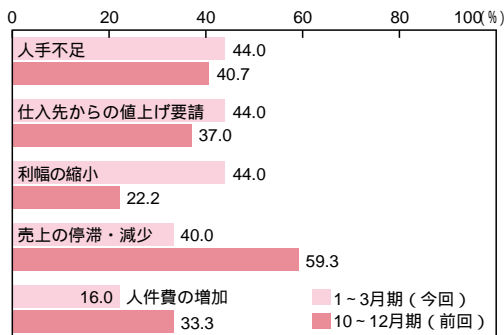
ただ、人手不足や仕入価格の上昇は続いており、経営上の足枷になっているもよう。

■ 4～6月期の予想

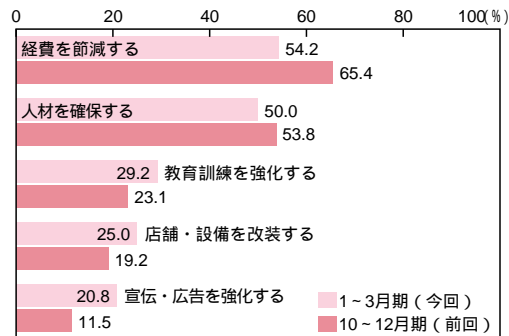
予想業況判断DIは 25.0。1～3月期に比べ少し悪化する見通しとなった。仕入先からの値上げ要請や人手不足は解消されず、このさきも懸念材料として残りそうで、業況を先行き楽観視する企業は少ない。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



1～3月期の景況 景況感3期連続の改善、収益は伸びを欠く

4～6月期の予想 予想DIは悪化、材料高・人手不足収まらず

▶ 1～3月期の景況

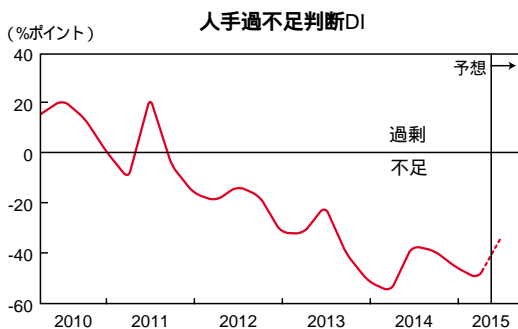
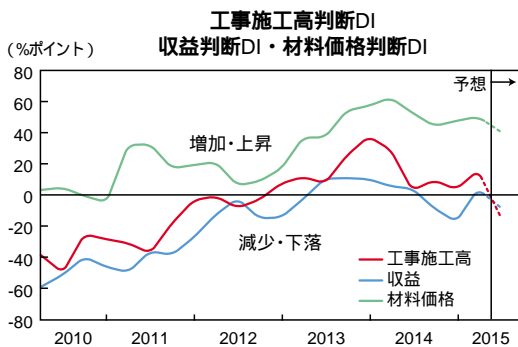
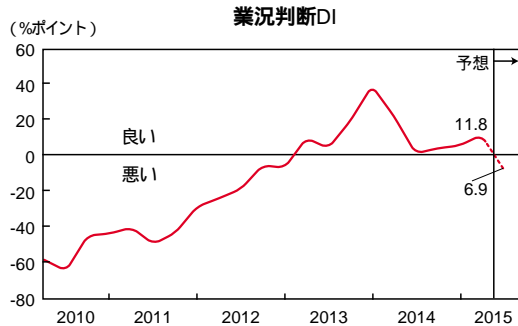
業況判断DIは11.8。10～12月期（5.9）に比べ改善した。改善は3四半期連続。前回調査時の予想は「悪化」だったが、予想に反して持ち直した形となった。DIのプラスは9四半期連続。回復の遅れていた住宅建設を主体とする企業にも改善の兆しが見られるようになっている。

全体として工事の量が増え、売上額も増加傾向にあるが、材料価格が高止まりしているようで、収益の伸びを欠いている。

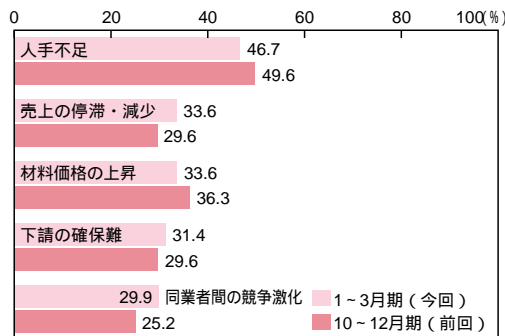
また、深刻な人手不足（職人不足）が依然として続いており、経営上の問題点のトップには「人手不足」、重点経営施策のトップには「人材の確保」があがっている。

▶ 4～6月期の予想

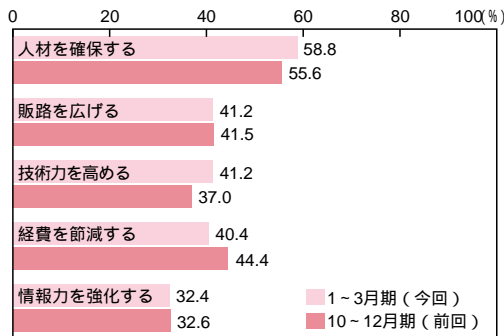
予想業況判断DIは 6.9。1～3月に比べて悪化する見通し。材料高や人手不足は収まりそうになく、先行きを慎重に見る企業が増えている。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



1～3月期の景況 反動減の影響が薄れ、1年ぶりの増収増益に
 4～6月期の予想 予想はプラスを維持、攻めの経営に転じる企業も

■ 1～3月期の景況

業況判断DIは13.2となり、10～12月期(5.2)にくらべ改善した。改善は2四半期連続。

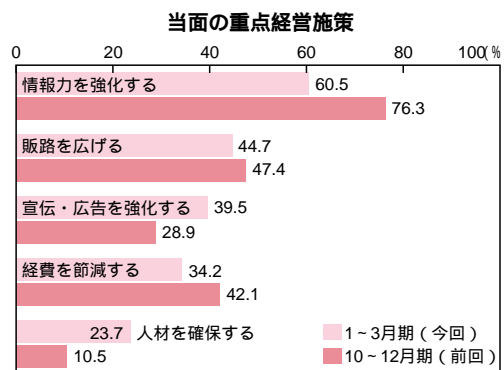
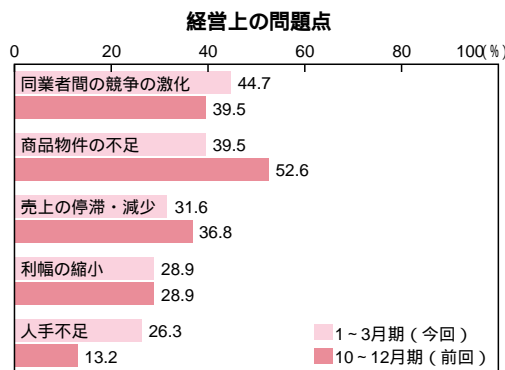
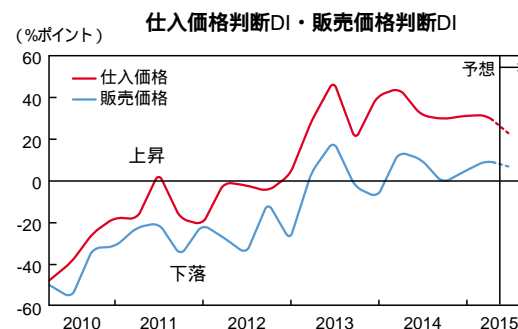
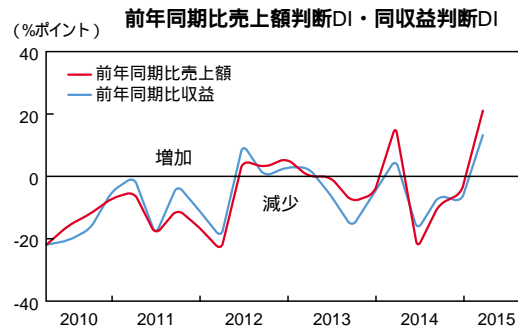
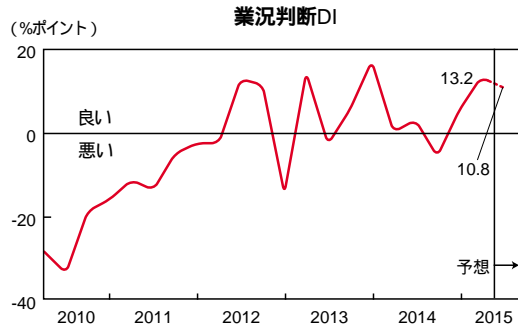
消費税率引き上げにともなう駆け込み需要の反動減がほぼ解消したとみられ、前年同期比売上額判断DIと同収益判断DIは、ともにプラスに転じ、1年ぶりの増収増益となった。

経営上の問題点のトップには「同業者間の競争激化」があがり、「商品物件の不足」と入れ替わった。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは10.8。1～3月期にくらべ少し悪化する形となったが、DIはプラスを維持する見通し。予想DIがプラスになったのは、非製造業のうちでは不動産業のみ。マインドは比較的良好に推移するのではないか。

当面の重点経営施策として、「宣伝・広告の強化」をあげる企業が増えており、攻めの経営に転じる企業が徐々に出てきていることがうかがえる。



1～3月期の景況 燃料下落が景況を下支え、人手不足の声強まる

4～6月期の予想 先行き慎重な構え、重点施策に「人材の確保」

▶ 1～3月期の景況

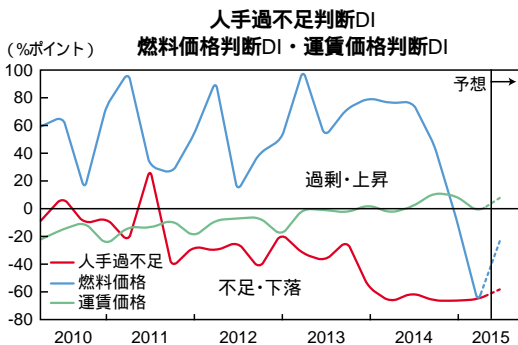
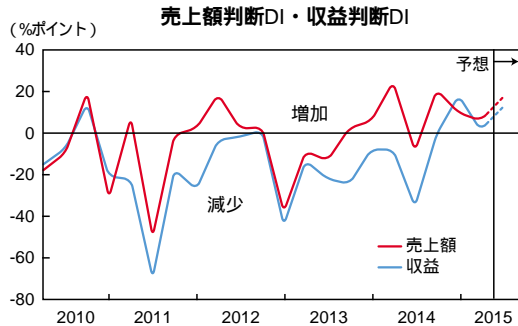
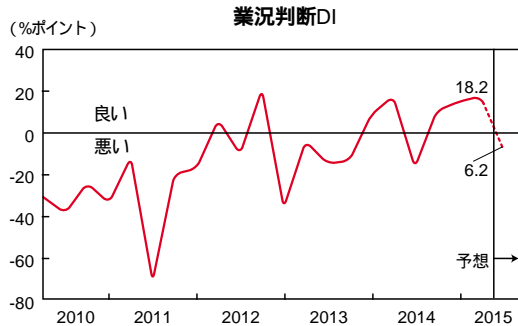
業況判断DIは18.2。10～12月期（15.6）に比べ改善した。改善は3四半期連続。前回調査時、「悪化」を予想していたので、予想に反した結果となった。軽油などの燃料価格が大幅に下がったことでマインド悪化が避けられたもよう。燃料価格判断DIは66.5〔下落〕。

足元の動向をあらわす売上額判断DIは6.6、同収益判断DIは2.1と、ともにプラスを維持。上向きの基調が続いている。

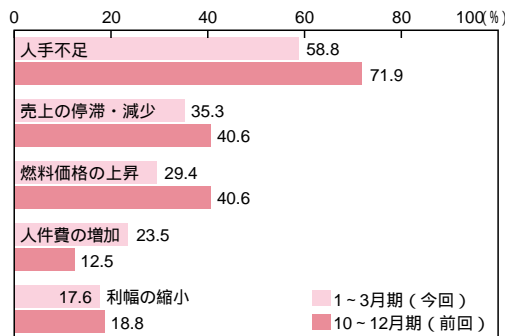
人手不足の声が強まっており、なかには人の問題で業務に支障をきたすところもある。経営上の問題点をみると、「人手不足」をあげる企業が、前回よりも減ってはいるものの、依然として半数を超えており、加えて、「人件費の増加」をあげる企業の増加も目立つ。

▶ 4～6月期の予想

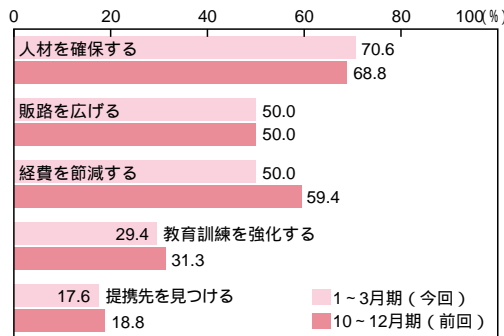
予想業況判断DIは 6.2。1～3月期に比べ悪化する見通しで、先行き慎重に構える向きが増えている。この先も人手不足は収まりそうになく、重点施策として「人材の確保」をあげる企業が多い。



経営上の問題点



当面の重点経営施策



1～3月期の景況 法人向けは堅調推移も、個人向けは冴えず

4～6月期の予想 予想DIは悪化見通し、料金価格の引き上げも

■ 1～3月期の景況

業況判断DIは12.7。10～12月期（ 3.4 ）に比べ16.1ポイント改善し、プラスに転じた。改善は2四半期ぶり。ただ、法人向けサービスが堅調に推移する一方、個人向けサービスは冴えないという構図は変わっていない。

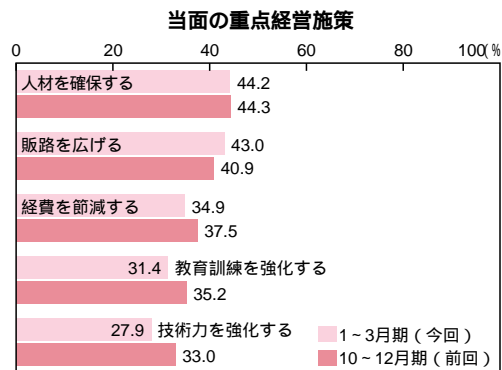
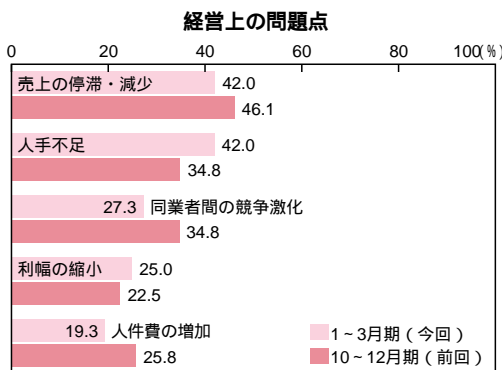
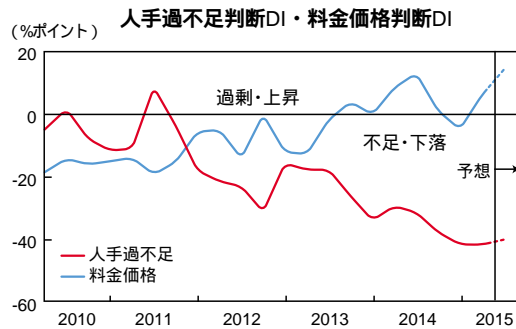
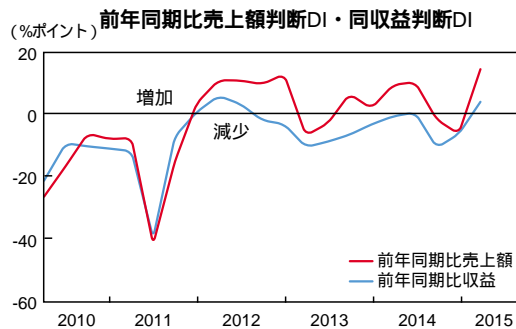
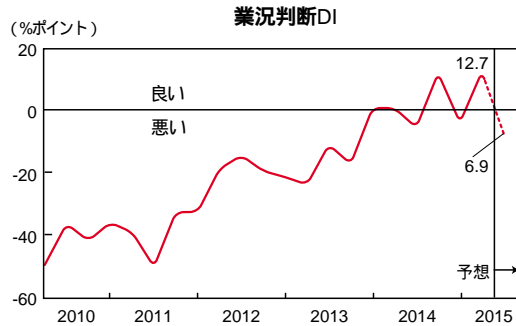
前年同期比売上額判断DIと同収益判断DIは、ともに3四半期ぶりプラスに転じたが、材料の値上がりが響いているのか、収益は伸びを欠いている。

経営上の問題点をみると、他の業種と同じように「人手不足」が目立つ。人手過不足判断DIは 42.0〔不足〕。

■ 4～6月期の予想

予想業況判断DIは 6.9で、1～3月期とくらべ悪化する見通し。料金価格判断の予想DIが13.7となり、一部で料金引き上げの動きもみられるのではないかと。

業況判断DI	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月 (予想)
法人向けサービス	21.1	10.3	35.8	7.5
個人向けサービス	3.0	30.0	23.5	30.3



お客様から寄せられた声

* 景気動向調査表の通信欄に記載のあった意見をご紹介します。

製造業のお客様

政府は景気浮揚策の一環として賃上げを要請している。大企業は対応可能だろうが、アベノミクスの恩恵が届かず厳しい状況の中小零細企業では対応が難しい。内外需の減少で減収減益の見通し。新たな販路を求め営業を展開中。(自動車部品)

大企業の業績は上向きと聞いているが、大半の中小企業はその実感が乏しいとのこと。中小企業まで効果が及ぶ政策を期待している。(自動車部品)

最近、海外工場の現地調達が進んでいるため、国内の小企業の仕事が減っている。この傾向は強まりそうで、このさき多くの小企業の倒産が予想される。(自動車部品)

消費税率アップの影響で買い控えが続いており、出荷量が減少している。(鉄筋加工品)

海外向けの大型受注があった。リーマンショック時に新しい仕事の開発を行ったものが大型受注に繋がった。(オートローダー)

加工部品の納期がだんだんと短くなっている。(専用機部品)

建設関連において、政府主導の政策は人手不足や都市集中化などの影響で、地方に潤いを与えていないのではないかと。昨年来、需要が増えたといわれながらも、ここにきて量や価格に軟化傾向がみられる。地域間格差や企業間格差が、一層大きくなると懸念している。(溶接金網)

(トヨタ系列の)部品メーカーへの部品値下げ要請は見送られたが、当社のような機械設備関連企業へは価格改善の要求があって大変。(油空圧機器)

大企業が失われつつある技術に気がつきはじめている。中小零細企業でも優位に立てる技術さえあれば、取引が成立するケースが増えている。(金型)

中国向けスマホ増産のための設備投資の拡大で受注が増加している。(電子部品組立)

国内市場は医療費抑制で伸び悩んでいる。保険適用外の人工歯根や義歯に注力。海外市場へも拡販中。(歯科資材)

円安が進みすぎている。輸入材料のコスト増を転嫁するに至っていない。(菓子)

卸売業のお客様

中小零細企業の景気は決して良くなっていない。(工作機械)

円安による仕入価格の上昇分を販売価格に上乗せできず、利益を圧迫している。非常に苦しい状態が続いている。(輸入木材)

プレハブメーカー向けの納材は低調だったが、特殊建物(幼稚園・保育園)やスーパー銭湯向けなどの注文があり、比較的忙しい。この先も不透明感はあるものの、名古屋駅周辺の再開発に期待したい。(木材)

業界全体が停滞している。昨年の消費増税の影響が多分にあると思う。(異形棒鋼)

遊技機メーカーの売上減少が響いている。とくにパチンコ機の販売台数の低迷には目に余るものがある。(機械器具)

自動車関連メーカーへの販売が前年同期を上回っている。良い業況が続いている。(労働安全衛生保護具)

エンドユーザーは常にこちら側から仕掛け(情報提供)をしないと反応がない。閑散期にはそれが顕著。(食料品)

北陸新幹線開業や東京オリンピック開催決定でインフラ整備が進むとみられるので、今後の道路業界は一層の期待がもてる。(道路資材)

小売業・飲食業のお客様

株高の影響もあって貴金属・時計など高級雑貨品の動きが良い。ただ、今年は暖冬気味だったため、冬物衣料の動きは良くない。(デパート)

春節でプラスの影響があった。(精肉店)

スバルのCMが増えて、よく売れるようになってきている。(自動車販売)

原油下落で仕入価格が低下、利益がすこし増えた。(ガソリンスタンド)

原油下落でガソリン等の値段が下がり、消費者の買い控えが少し収まっている。ただ、石油元売の統廃合で仕入コスト

は上がっている。(ガソリンスタンド)

アベノミクスの「成長戦略」は遅れているが、それでも消費税率引き上げの延期で、消費マインドが少しずつ回復していると感じる。(パスタ料理)

毎年2月は売上が落ち込むので、あるイベントに参加したところ、思った以上に効果があり増収につながった。とはいえ、食品の仕入価格がかなり上昇し、経費削減も限界にきているので、ついていけない。(イタリア料理)

建設業・不動産業のお客様

人手不足。とくにスキルを持った人材が不足している。(電気設備工事業)

受注を予定していた物件。下請け企業が足りず、受注を辞退した。(電気設備工事業)

大企業と中小企業との格差が広がっている。(建設業)

雇用を守るためには、まずは会社(自社)が良くならなければならない。中小企業に景気回復の実感はなく、実感できるようになるのはいつになるか予想できない。(一般土木建築業)

多少アベノミクスの影響を感じるようになってきた。仕事の引き合いも増えており、業況は良化していると思う。(一般建築業)

耐震補助金などの補助金制度をPRし活用している。(住宅建設)

全体的に住宅を建築するお客さまが動き出している。(注文住宅建築)

不動産業は計画のできない不安定な仕事。今年は去年から売却を考えていた方の成約などがある。(不動産)

運輸業・サービス業のお客様

経験の浅いドライバーの雇用で業務に支障をきたし、販路を広げられない。高速道路料金の深夜割引の縮小も響いている。(運輸業)

とにかく人手不足。(運送業)

月単位で見ると燃料費の下落は続いているが、10年前に比べれば安いとは言えない水準。(運送業)

軽油価格が大幅に値下がりした。(運送業)

現場スタッフの人員不足で、稼働制限が発生している。(医療)

消費増税の影響で個人消費の低迷が続いている。観光(宿泊)への支出が抑

えられている。(旅館)

外国人観光客の増加で多忙になっている。(リネンサプライ)

電気料金やガス料金の値上げが、経費削減のじゃまをしている。(産婦人科)

中小零細企業は産業社会のなかの毛細血管のような働きをして活路を拓かなければ発展継続できないと考える。(給排水設備)